

府中郷土の森散策（曼殊沙華祭り見学）

大西 光男

10年ほど前に、とある集まりに誘われて仲間（歩こう会＝アルコール会）に入れてもらいました。この会は、2月の梅見から12月の紅葉狩りなど季節ごとに旬の花見と自然との触れ合いのついでにちょっとした寺社巡りや街歩きを楽しみ、帰りには軽く一杯で盛り上がる仲間たちです。70歳前半から上は84歳までの年齢層ですが、年齢を気にせず、気楽に話せる仲間です。（趣味のカメラ、自転車でのツーリング、寺社巡りの時は日本の歴史、家庭菜園など話題は豊富で私としてはついていけないこともあります、一杯入ると賑やかに笑い、次の見学場所を決めてお開きになります。）

最近では加齢による体調不良や体のあちこちの痛み等で集まれるメンバーも限られてきました。

今回は府中郷土の森で開催されている【曼殊沙華まつり】を幹事さんがセットしてくれました。



当初計画のルートは

10時30分JR府中本町駅集合 ➡ 大國魂神社 ➡ 府中郷土の森（曼殊沙華まつり）でしたが、せっかく府中本町まで来たのだから東京競馬場を見たいとの声があり、競馬場へ寄り道することになりました。

東京競馬場～大國魂神社

駅から風雨にさらされることなく競馬場に行く連絡通路（フジビューウォーク：天気が良いと富士山が見えるらしい）を通して競馬場入口まで5分弱でした。入場料は200円でしたが、ちょっとした寄り道が条件で入場することができなかったのが悔やまれました。入場ゲートの外から緑美しいターフをチラ見して、ほとんどない後ろ髪をひかれながら競馬場を後にし、大國魂神社を目指しました。



競馬場西口を出るとすぐの「妙見寺」を抜けて大國魂神社へ向かいましたが、妙見寺の「竹林」はこじんまりした中にも神秘的でした。



妙見寺境内を抜け10分ほどで大國魂神社の大鳥居に到着、記念にチョット1枚。

5分ほど歩くと本殿前は少し早いですが七五三参りや祝い着でくるまれた赤ん坊を抱いた若夫婦と祖父母のお宮参りなど大勢の人で賑わっていました。



また、神前結婚式の儀式で本殿に向かう行列にも遭遇しました。神社で結婚式に遭遇するのは「大吉兆！幸運のサイン」と言われておりますが、まだ私には巡ってきていません。

曼殊沙華まつりへ

さあ、本来の目的「曼殊沙華まつり」に向かって、府中郷土の森を目指します。府中本町の駅を過ぎるとすぐに中央高速のガード下をくぐり、少し進むと「プレミアムモルツ」を製造するサントリービールの武蔵野工場を右手に発見、ユーミンのヒット曲「中央フリーウェイ」で歌われている東京競馬場とビール工場の位置関係を確認しました。ビール工場から30m先の交差点を右に曲がると正面に「府中郷土の森公園」が見えます。公園には「交通遊園」があり、ゴーカート乗場では、土曜日ということもあり、順番待ちの子供たちで大行列でした。

公園の広場を見つけ、昼食（コンビニのおにぎりや缶ビール1本ですが）、1時間ほど休憩し、「郷土の森博物館」と曼殊沙華まつり開催中の「郷土の森公園」に入場です。ところが、入場券購入窓口の傍で曼殊沙華まつりは「終わりました」と書かれた嫌な張り紙を見つけてしまいました。曼殊沙華の咲き誇るエリアへ足を運んでみてみんながっかり！！下の左の写真のとおり、終わっていました。

曼殊沙華は彼岸花というくらいなのでお彼岸の頃が最盛期なのでしょう。10月4日では遅かった。

右の写真のとおり見事に咲き誇るという証拠写真です（昨年、お彼岸の頃）梅見もできるらしい。



曼殊沙華の花の盛りは終わってました



昨年の様子



梅見

気持ちを切り替えて府中郷土博物館のゾーニングエリアに移築・復元された、府中郵便取扱所（木製の郵便ポストも再現されていました）や府中町役場庁舎（大正10年に完成した洋風建物）等を見学し、次の反省会会場（武蔵小杉駅周辺）へ向かうことに。



府中郵便取扱所



府中町役場庁舎

競馬でオケラになったファンで混雑する府中本町駅に戻るのをさけて、バスで5分のひとつ前の駅 分倍河原駅（ぶばいがわらえき）から電車で武蔵小杉に向かい博多名物もつ鍋で締め一杯を楽しみました。

歩いた距離は12,000歩で股関節痛持ちの私にはますます耐えられる距離でした。